

令和5年度 第3回  
東京都地域活動に関する検討会  
速 記 録

令和6年3月6日（水）

東京都庁第二本庁舎31階 特別会議室27

午後 1 時30分開会

○地域活動推進課長 皆様お待たせしました。ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催いたします。

私は、事務局を務めます、東京都生活文化スポーツ局地域活動推進課長の沼倉と申します。本日はよろしくお願いいたします。

本日の検討会ですが、お手元の資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づき設置されておりまして、検討会設置要綱第 8 により、本検討会は公開とさせていただきます。御異論がなければ、検討会の議事録も公表させていただくことを御承知いただければと思います。

なお、昨年12月に開催いたしました本検討会の議事録につきましては、東京都のホームページにて公表させていただいております。

それでは、ここから、検討会設置要綱第 5、第 2 項により、本検討会の座長を務めます生活文化スポーツ局都民生活部長の柏原が進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

○座長 皆様、こんにちは。本検討会の座長を務めさせていただきます生活文化スポーツ局都民生活部長の柏原でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

本会は、都が抱える様々な課題を解決するために、各町会・自治会連合会の皆様方と、行政区域を超えて行政の課題や皆様方の取組を共有するとともに意見交換を行うことが重要であると考えまして、平成29年 3 月に設置されたものでございます。本日も忌憚のない活発な御意見交換をお願いしたいと思います。

では、ここから着座させていただきます。

次に、配付資料につきまして事務局から確認をさせていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、資料の確認をさせていただきます。まず、本日の検討会の委嘱状の原本を配付させていただいておりますので、御確認いただければと思います。

また、こちらの今回の資料についてですけれども、資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」、資料 2 「東京都地域活動に関する検討会委員名簿」、資料 3 「座席表」、資料 4 「事前アンケート集計結果」、資料 5 「東京都地域の底力発展事業助成 事例集」ということで、こちらは冊子をお配りさせていただいております。そちらのものに加えま

して、今回、資料といたしまして、横の資料で「都内在住外国人人口の推移」過去20年のものをお配りさせていただいております。加えまして、「多文化共生を活かして活気ある地域に」というチラシ、「東京都多文化共生ポータルサイト」というチラシ、また台東区さんの資料の「外国人とのコミュニケーションブック」の抜粋、別途お配りしております狛江市さんの「町会・自治会に入りませんか?」というやさしい日本語で書かれたチラシ、以上になります。過不足等ある方はお声がけいただければと思いますが、いかがでしょうか。

また、本日は、座席に設置しておりますマイクを使用いたしますので、御発言いただく際には、目の前にございます真ん中のボタンを押していただいて、赤い光を御確認いただいた上で発言いただいて、発言が終わりましたら再度ボタンを押していただくよう、よろしく願いいたします。

○座長 では、進行させていただきます。

資料等、大丈夫でございますね。よろしゅうございますね。

続きまして、新任の委員の方を御紹介いたします。本年12月の令和5年第2回検討会から1名の委員の方が交代されております。杉並区の宮崎委員でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日は、資料2にございます委員さんのうち、1番の千代田区さん、2番の中央区さん、4番の新宿区さん、8番の江東区さん、16番の豊島区さん、18番の荒川区さん、26番の青梅市さん、29番の調布市さん、33番の多摩市さん、34番の稲城市さん、35番の羽村市さん、37番の奥多摩町さん、38番の新島村さんの以上13名の委員の方につきましては欠席の御連絡を頂戴しているところでございます。

それでは、本日の次第に入らせていただきます。

本日の議題ですが、「町会・自治会における多文化共生の推進について」でございます。都内の在住外国人の数が、コロナ禍において一旦減少したのですが、令和6年1月、本年1月には約65万人になりまして、再びかなり、また急激に増えていることになっております。多文化共生を進めることにより、外国人住民が安心して暮らせる社会につながるようになりますとともに、町会・自治会活動への外国の方の参加もあって参加者の増加、あるいは、さらに進んで担い手の確保など、町会・自治会の皆様の活動の活性化にもつながるのではないかというふうに私どもは考えておるところでございます。そこで、本日もすけれども、町会・自治会における多文化共生の推進につきまして、各区市町村の連合組

織または加入されている町会・自治会の皆様方の状況、そして取組例などについて意見交換をさせていただければと思っております次第でございます。

それでは、事務局のほうから調査事項等についての御説明をさせていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、まず事務局よりアンケート結果などについて御案内、御説明をさせていただきます。

先ほど座長の柏原のほうから説明がありましたが、令和6年1月には都内の外国人の人口が65万人に達しております。お手元に今回お配りした資料の中にこちらのグラフがあります。そちらを御覧いただければと思います。こちらは過去20年間の都内在住外国人の人口の推移の資料となっております。御覧いただきますとおり、平成17年に35万人ほどの人口が令和6年では65万人ほど、この20年間で30万人も人口が増えておりまして、コロナの流行の中で一旦外国人人口の伸びが落ちてしまったところがございますが、現在それは回復しておりまして、令和6年では65万人の方が都内に広く住んでいる現状があります。そのようなことも踏まえまして、今回、各区市の皆様に御協力いただきましたアンケートにお答えしていただいております。

それでは、アンケート集計結果の資料、こちらの冊子のほうを御覧いただきながら話を聞いていただければというふうに思います。

まず、おめくりいただきまして2ページ目、1、外国人住民との共生につながる取組の実施状況というグラフになっております。こちらは、単一町会・自治会で実施する防災訓練などにおいて外国人住民と共生につながる取組を実施したことがあるかという回答が38件のうち13件ございました。逆に、実施したことがないという回答が22件、把握していないという回答が3件ございました。こちらを見ていただくとおり、なかなか実施がなされていないという現状が出ております。

具体的な取組内容について各区や市のほうからお話を聞きましたところ、区主催の講座との合同開催の中で、在住外国人や区内の町会関係者を交えて話し合いながら解決していくような防災訓練を町会と一緒にやった事業があったとお聞きしております。この関係の事業については台東区さんがやられた事業なのですが、もしよろしければ、台東区さん、この事業の中身について少し補足いただければと思うんですが、御説明のほう、よろしいでしょうか。会長、もし何かあれば、この関係の取組とかお話を聞かせていただければと思いますが、いかがですか。外国人の方との防災訓練という取組ですけれども。

○台東区 台東区町会連合会の政木でございます。

台東区には約1万8,000人の外国人が住んでいますが、皆さん、テレビで御覧のように、多くの外国人観光客も台東区に訪れています。町会活動ではありませんが、浅草寺周辺では外国人観光客対応訓練が行われております。町会活動では、外国人住民とともに活動をしている例もありますので、これは事務局から御報告いたします。

○台東区 台東区町会連合会事務局の台東区区民課の倉片と申します。私のほうから、今、資料のほうにも載っておりますけれども、区主催事業ではありますが、台東区で行われました町会と在住外国人との防災訓練について御紹介をさせていただきます。

まず、訓練に御協力いただいた町会なんですけれども、そちらの町会につきましては、数年前ですが、住んでいる外国人の方のマナーが非常に悪くて、夜中とか深夜に大騒ぎしたり、車の運転がかなり乱暴でいろいろ警察のほうにも苦情が行ったり、警察のほうも仲裁に入ったり、ちょっと問題になっていたそうです。同じ国の方が1か所とかその周辺に結構住んでいたようで、たまたまですけれども、取りまとめをしていただけるその国の方が引っ越してきて、町会とか行政とかの間に入っていただいて、かなりお話し合いとかいろいろな協議をしてくれるようになって、今では住んでいる外国人の方が町会のほうにも加入されて、防犯パトロールを一緒にやったりということで今は良好な関係でやっただいて町会でございます。

続きまして、防災訓練につきましては、区のほうで実施している事業の中で、区民向け、日本人向けの講座ですけれども、やさしい日本語について学ぶ講座を何回かに分けて開いていたそうです。その実践の場として防災訓練の企画を町会さんのほうに持ち込んで、実現したものでございます。訓練の内容につきましては、目的として、災害時にパニックにならないように適切な対応、行動が取れるように。また、防災意識の向上と、外国人住民を含めた住民同士のコミュニケーションを強化しようということを目的に実施いたしました。参加者ですけれども、町会の方78名、そのうち在住外国人は45名、あとは区主催の講座を受講していた18名と関係者12名、トータル108名で行った訓練です。

資料のほうにも少し書いてありますけれども、6人前後の小さいグループに日本人、外国人を交ぜ合いながら分かれて、町内の数か所にチェックポイントを設けて、そのチェックポイントに行くと質問が書いてある用紙が掲げられていると。そこに書いてある内容をその6～7人のグループの中でいろいろ答えとか考えを皆さんで話し合いながら、コミュニケーションを取りながら、内容は防災についてのことなので、防災についてのいろいろな皆さんで話し合いながら回っていくという訓練でございました。そのチェックポイントになった

ところも、町内の役員さんのお宅だとか町会掲示板とかに張り紙をして、質問を貼っていたそうです。

訓練の参加者の感想についてもちょこっと書いてありますけれども、町会の方からは、いつも近所で擦れ違ってもどう話したらいいのか分からなかった人たちと簡単な日本語で十分意思疎通ができることが分かったとか、一方で、在住外国人の方からは、初めてこの町とつながれたと感じた、これからもずっとここに暮らしたい、またぜひこういう訓練があれば参加したいという感想があったそうです。

台東区からの報告は以上でございます。

○地域活動推進課長 政木会長、台東区の御担当者の方、ありがとうございました。突然振って、すみませんでした。

先ほど会長からも話がありましたけれども、やはり外国人の観光客も今コロナが明けて非常に増えてきている中で、その方の対応というのも各区の中でもいろいろ今工夫をしながらやられていらっしゃるのかなと思います。また、台東区の御担当者の方からもお話があったとおり、どうやってつながりをつくっていくのかというところで、マナーの問題ですとか、そういうものに苦労されている中で、取りまとめ役の方が来てちょっと状況が変わったとか、防災訓練などの事業を通じて地域を知っていただくような取組を外国人の方にしたというお話がありましたので、このような事例なども参考にしながら、またこちらのものを考えていただければというふうに思います。

また、こちらのほうのアンケートの結果なども拝見しますと、避難訓練、学校の防災活動拠点訓練などに外国人の方に参加いただいて、実際に参加された外国人の方からいろいろな意見を聞きながら、運営マニュアルの策定ですとか、必要な物品の精査などに役立ったという例なども報告を受けております。また、訓練を通じて町会役員、地域住民とのコミュニケーションが増えたというような御報告もあって、イベントなどへの参加にもつながった例もお聞きしております。

次のページをめくっていただければと思います。そのほかの例としましては、住民の約25%が外国人住民の自治会ということで、自治会の中に外国人住民の占める割合が非常に多い中で、防災活動の説明と交流の機会を増やすための防災懇話会を開催した事例がありました。また、大学の社会学部多文化共生コースの学生の方との連携で文化クラブを開催して、子供向けの学習支援ですとか日本語教室などに対して交流を重ねたというような御報告も頂いております。こちらが頂きました訓練等の開催の中身の状況です。

続きまして、多文化共生の呼びかけや、やさしい日本語や外国語を活用したチラシ等の配布ということで、先ほど地域の底力で活用いただくチラシも配付させていただきましたが、紙などの配布なども通じながら呼びかけをしていただいているような町会・自治会の方も多いと考えております。まず1つ目の事例としては、単一町会において防災訓練を行う際に多文化共生のチラシを作成し配布したことがあるという御報告を頂いております。

続きまして、やさしい日本語で防災訓練のチラシを作成して、当日の訓練でもやさしい日本語での説明や、通訳と一緒に回るなど工夫して運営したという事例があります。この件につきまして、中野区さん、すみません、ちょっと補足というか、詳細が分かりましたら御報告いただければと思いますが、お願いできますでしょうか。

○中野区 それでは、私、中野区地域活動推進課の高橋と申します。よろしく申し上げます。

中野区にある住宅自治会の事例について御説明をさせていただきます。この住宅自治会では、外国人住民の方が年々増加して、全体で30%を超えているような現状がございました。自治会として、いかに外国人の方々を自治会活動に取り込んでいくか、それを課題として捉えておりました。そこで、共通課題として関心の高い防災をきっかけに外国人住民の方々と交流する機会をつくる目的で、やさしい日本語を活用した外国人の方々を交えての防災訓練を開催いたしました。こちらは、中野区の国際交流協会などにも協力していただきながら、やさしい日本語で防災訓練のチラシを作成したり、前日の構内放送で様々な言語での呼びかけを行ったり、そして、当日はやさしい日本語での説明や通訳が同行するなど、外国人の方々も参加しやすいように工夫して防災訓練を運営いたしました。

結果、日本人の方と外国人の方の相互理解がとても進んだようでございまして、事業後のアンケート結果でも、参加してよかったという声が多く、また、外国人の方々も防災に対する関心がとても高いことが分かったそうです。事業の成果としましては、今後、外国にルーツを持つ方々と共存共生するための交流づくりに役立つ方向性が見えてきたという感想でございました。

○地域活動推進課長 御報告、ありがとうございます。今お話しいただきましたとおり、やさしい日本語を活用して外国人の方を防災訓練などに巻き込んでやったという事例でございました。どうやって外国人の方に訓練をやっていただくのかというところの一つの方法として、東京都もやさしい日本語の普及を図っておりますので、その辺りも後で資料なども使いながら御説明を差し上げたいと思います。

そのほか、ビラを作成した事例ですとか、外語大やアメリカンスクールの関係者の方にチラシを配布して誘ったとか、基地があるような状況で、日本人の奥様と一緒に住んでいて、イベントのチラシに英語を入れたという工夫があるというような御報告を頂いております。そのほか、町会員であれば国籍にかかわらず防災訓練を実施しているという御報告ですとか、避難所についても国籍や町会員の有無にかかわらず利用可にしていますという話とかもございました。通訳ボランティアの協力ですとか、大使館や領事館とも一緒に取り組むような、地域の状況を使って一緒に待機場所として活用しているような事例もお聞かせいただいております。また、PR映像の放映を3月に行ったという市の取組などもお伺いしております。

続きまして、次の4ページを御覧いただければと思います。2番として、外国人住民との共生に向けて取り組んだ活動として、複数の回答可ということでお聞きした中身になっております。やはり外国語またはやさしい日本語でのイベントの案内ポスターやチラシ等の作成に取り組んだという町会・自治会の方が一番多かったという中身でございました。2番目が外国人住民のイベント参加、3番目はイベントへの外国人住民の積極的な参加呼びかけ、こちらが上位の3つになっております。具体的内容としましては、外国語またはやさしい日本語でのイベント案内ポスター・チラシ等の作成。先ほども話ございましたが、このやさしい日本語を使ってポスターやチラシを作って配布をしたという例で、ごみ分別の多言語チラシの作成とか、餅つき大会のチラシを日本語、英語の表記で作成して、外国人住民に直接声かけして参加を促した事例があったとお聞きしています。また、町会で行っている夏祭りの周知チラシを英訳したものを作って外国人住民が祭りに来場したという取組も聞かせていただいております。

また、イベントへの外国人住民の積極的な参加の呼びかけでは、外国人のための日本語教室や子供日本語教室の受講者の保護者に対して、やさしい日本語で作成した町会の案内を活用して入り方等について説明をしたような事例でございました。外国人に対して餅つき大会への参加を呼びかけて、まず自分たちの地域で過ごす外国人との接点づくりを行ったという取組の報告もありました。また、夏の盆踊り大会に参加を呼びかけて、一緒に踊って喜ばれたという事例も報告を受けております。

次のページを御覧いただければと思います。祭りの関係では、外国籍の方に浴衣の貸出しを行って双方とも大変好評だった事例ですとか、異文化体験ができるように英語で神輿や山車について説明できるスタッフを配置し交流を図ったという、祭りの際に浴衣の関係



とか説明できるような方を配置して異文化体験、その説明ができるようなことをやったという御報告を頂いております。

外国人住民のイベント参加につきましては、地区まつりにおけるパレードへの参加とか、ロシアダンスの講習会を外国人住民の方に講師になってもらって行ったとか、「英語で遊ぼう」というイベントなどを定期的で開催したというような話がございました。町会主催の盆踊り大会に近隣に住む日本語学校の学生を招待している、浴衣で参加しているという例もございました。また、自治会のお祭りでウクライナの方に祖国の歌を披露していただいた事例ですとか、多国籍——アメリカ、ロシア、韓国、中国、ドイツ、台湾、非常に様々な国の方の各国の料理とかダンス、歌、遊びなどの異文化交流を実施した事例があったとお話を聞いております。

また、外国語またはやさしい日本語での加入促進チラシの作成・配布の件では、市民まつりにおいて、連合会としてブース出展をし、やさしい日本語での町会活動及び地域防災力周知事業を実施したという中身でございます。こちらは狛江市さんから報告を受けていますが、狛江市さん、詳細や補足があればお話しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○狛江市 狛江市町会・自治会連合会事務局の狛江市地域活性課、高橋と申します。

市民まつりにおける連合会のブース出展について説明させていただきます。昨年11月の狛江市民まつりにて、狛江市町会・自治会連合会の初めての試みとして、市民まつりでブース出展を行いました。やさしい日本語での町会活動及び地域防災力周知事業といたしまして、資料にも記載がございますが、やさしい日本語で町会・自治会の加入促進チラシを作成し、併せまして防災グッズを配布するという事業を行いました。

お手元にこちらの「町会・自治会に入りませんか？」という水色のチラシをお配りさせていただきました。こちらを市民まつりで防災グッズと併せまして1,700セット配布いたしました。チラシの右下や右上にあるキャラクターは、狛江市の安心で安全なまち推進キャラクターの守助（もりすけ）でございます。学校の通学路見守りや防犯パトロールをいただいている市民の方の黄色いベストの背中の真ん中にプリントされているものなので、市民の方、子供たちを含めてなじみのあるキャラクターとなっております。こちらを中心に作成いたしましたチラシです。

市民まつり当日には狛江市国際交流協会もブース出展がありましたことから、事前にその協会にこのチラシを配布の上、町会・自治会の重要性に関しまして説明をするとともに、

ブース出展の御案内を差し上げたところでございます。連合会として初の試みでございましたが、市民まつりという大変多くの方が参加するイベントで周知ができましたので、今後も続けていきたいと考えており、次の市民まつりでもブース出展を予定しているところでございます。

狛江市町会・自治会連合会からは以上でございます。

○地域活動推進課長 狛江市さん、ありがとうございました。やはり多くの住民の方が来場する市民まつりを契機としてこちらの町会・自治会の関係の普及を図ったという事例でございました。

そのほか連合会が主催する研修会の実施に当たって、こちらの底力なども使いながら共生チラシを配布して使ったという御説明とか、自治連会報と併せて多文化共生のチラシの配布を行ったような事例等がございました。

また、外国人住民にイベント運営等を手伝ってもらう事例の中では、町会会館の無償貸出しなども申入れをして、外国人住民のための食事会や音楽会などのイベントを年何回か開催してもらったという話がございました。また、祭礼、新年会にアメリカ、スペイン、中国等の外国人が参加し、主に力仕事を手伝ってくれている町会があったという話もございました。

その他としましては、管理人が不在の外国人が多く住む賃貸住宅のごみ出しマナーが悪いため、行政が作成した冊子に加えて町会が独自に作成した多言語対応のチラシを配布してごみ出しルール徹底を呼びかけたという事例がございました。この件は文京区さんの事例ですが、文京区さんから事例のほうを御説明いただければと思います。

○文京区 私、文京区町会連合会担当の白井より説明をさせていただきます。

地域の外国人住民との共生に向けて取り組んでいる事例ですけれども、コロナ禍が落ち着いた関係で多くの外国人留学生等も文京区のほうに戻ってまいりました。その多くの方がお住まいになられている、いわゆる寮のような賃貸住宅がありますが、そこは特段管理人のような方がおらず、入居に際してルールの説明や徹底等があまりなされていない関係で、ごみ出しのマナーが悪く、そちらがある町会についても困っている状態ということでした。

そこで、文京区が作成しております「ごみと資源の分け方・出し方」という冊子に加えて、町会が独自に、こちらの区で作成している冊子の中から収集時間や曜日、簡単な分別方法を、そのマンションに多くお住まいの国籍を確認しまして、英語、中国語、ベト

ナム語を記載した多言語対応のチラシとして戸別に約70世帯ほど配布させていただいたということです。

こちらのチラシの作成については、単一町会では難しいというところもございますので、文京清掃事務所の協力も得て作成したということです。そのかいもございまして、周知する前より大分ごみ出しのマナーが向上したということもございます。また、副産物として、配布に当たりまして戸別に回っていたところもあり、その後数名の方が町会のイベントに参加するような新たなつながりもできたということでした。

文京区町会連合会からは以上となります。

○地域活動推進課長 御説明、ありがとうございました。やはり各地域において、外国人の方のごみ出しの問題というのは多くの地域で苦勞されているというふうにお聞きしておりまして、こうして町会でも独自の多言語対応のチラシを配布して、直接ルールの徹底などを呼びかけて、それが効果につながったという御報告でした。

今いろいろな各区や市から事例をお伺いしておりまして、防災訓練ですとか祭りなど様々な機会を通じて外国人に対して働きかけなどを行った事例等がございました。今いろいろな話を聞きまして、うちの区や市もこういうことをやっていますという事例をもし御紹介いただけるような区や市がありましたら挙手をお願いしたいんです。どこか、こういうような取組をやっていますよというところがありましたらお願いしたいのですが、何かございますでしょうか。

○江戸川区 江戸川区の関口といいます。

江戸川区は、現在、外国人約4万三千数名の方がお住まいでございまして、国で言えば約120の国の方が住んでおります。私どもの江戸川区は大変イベントが多い区でございまして、お祭り等では、外国人の方々にいろいろな模擬店とか、そういうものに出させていただいて区民との交流を図っております。そして、子供会においても、子供会に外国人の子供が入ってきて、それを絆として大人の方も町会に入ってください、そういうような形を取っている町会も多数ございます。これから町会・自治会というのは子供を中心とした活動が大事な組織ではないかと思っておりますので、その点において、外国の子供たちと日本の子供たちが仲よくなることによって、そして今度は大人たちが一緒にその中に入って行って町会・自治会の活動につなげていく。そういうような事例が江戸川区内には結構あります。

○地域活動推進課長 関口会長、ありがとうございました。今、事例で話していただいたとおり、子供会を接点に、さらにその保護者の方が町会・自治会に入ることに繋がった

ような事例をお聞かせいただきました。非常に参考になるような事例だったかと思います。

そのほか、こういう取組をやっているのかという事例がありましたらお話をお聞きしたいのですが、何かございますでしょうか。

今お話をいただいたようなごみ出しのマナーに対する周知徹底については、ほかの区でもいろいろな取組をやっているようで、6ページにあるような中身では、外国人の方に対してウェルカムパーティー、そういうようなイベントの中でごみの出し方とか防災について普及したり、日本文化に触れてもらうような機会をやっていますという御説明がありました。また、底力なども使いながらチラシを作成したり、動画をDVDプレーヤーを使って普及したというような御説明もございました。

続きまして、次のページを御覧いただきまして、7ページ目の上記以外でやってよかった点ですとか、地域住民の反応についての御説明になります。地域住民と外国人との交流ということであれば、様々な機会を通じて交流を深めることができたという御感想です。また、訪問販売の撃退法、ごみ出しルールだけではなくて、身近な困り事に関しての意見交換なども活発に行えたというような話がありました。盆踊り当日では、来場者への紹介を行って交流を深めた事例ですとか、町会が近所のコンビニでアルバイトをしている日本語学校の学生と遭遇してさらに交流が深まっているという事例がございました。地域イベントへの参加を通じて、ふだんの生活の中で交流を持つ機会が少ない地域住民との絆が深まったというような話もございます。また、町会事業を見学する外国の方が多ことから、英語表記のポスターやチラシを作成して周知したところ、多くの参加を得て交流することができたという話があります。日頃接点の少ない住民同士が交流する契機が生まれて交流が活発になり、顔の見える関係になることで地域のつながりを強化することができたという事例です。また、外国人との共生や多文化理解のきっかけとなったというような様々な感想や取組が行われています。

一方で、外国人からの反応につきましては、ごみ分別チラシについては、多言語で外国籍の方が見ても内容が分かるなどの反応があったということでした。また、訓練などに参加した外国人住民から、初めて案内を読むことができた、地域に受け入れられていると感じたなどの感想があったということです。日本語講座の初歩編を受講した日本人住民からは、外国語が話せなくても日本語で話しかけてよいことが分かったとか、話しかけてみようというような、やさしい日本語を使って外国人に教えてみようなどの感想があったというお話もあります。また、餅つきなど日本の文化に触れてとてもいい経験ができたという

御感想とか、役員の方に誘われて町会に入ったという事例で、役員もやるようになりましてというような外国人参加者の声があったということです。

また、外国人の町会イベントへの参加につきましては、盆踊りも高齢化による担い手不足が深刻なので、外国人を含む若い世代の方に裾野を広げていきたいとの声が上がっています。コロナ禍以降久しぶりに実施した町会の盆踊り大会では、町会内にある外国人向けゲストハウスの宿泊者が浴衣を来てイベントに参加してくれた事例ですとか、露店販売において出店してイベントを盛り上げてくれたという事例になります。品川区の方、事例を御説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○品川区 私どもの町会は、品川駅から旧東海道に入った北品川1丁目、2丁目、3丁目というところですが、うちの町会も年がら年中イベントだらけで、おいらん道中だとか、子供たちが旧東海道をマラソンするとかいろいろなイベントがあるんです。8月の最終の土日には、うちの町内にある、明治天皇が江戸へ入るときにお休みいただいたという聖蹟公園が結構大きいんですよ。そこへ3階建てのやぐらを立てまして、土日の2日間、盆踊り大会をやるんです。去年は、ベトナムからの留学生、これは近所にゲストハウスがありまして、その学生さんたちがゲストハウスが用意した浴衣を着て10人ほど参加してくれました。

最初は輪の中に入ってもぎこちなく踊っていたんですが、だんだん慣れるに従って、我々のやぐらの上に上げて、集まった皆さんにベトナムの学生さんですよということを御紹介して、楽しく過ごせたと思っております。2～3曲踊っていただいて、あとは来賓席のほうで、品川区長、それから警察署長、消防署長と来賓の方がいっぱいいるのですが、そこへ交じって一緒に焼鳥を食べたり、焼きそばを食べたり、一杯飲んだり、すばらしい交遊会ができたと感じております。

○地域活動推進課長 御報告、ありがとうございます。やはり最初はぎこちなく踊っていた外国人の方がどンドン輪の中に入っていったという事例で、非常に工夫をしながら住民の方と外国人の方の交流につながったという事例でございました。御説明いただきまして、本当にありがとうございます。

続きまして、こちらの御説明を続けますと、多文化交流事業などで外国人住民に参加いただくことで役員との交流が図れたという事例ですとか、外国人住民の方が積極的に運営に携わってくれるようになったような効果があったという話がありました。また、外国から来た方については、お父さんは職場で、お子さんは学校で日本語を話せるようになりま

すが、お母さんはあまり外に出ないのでなかなか話せるようにならない方が多い現状の中で、多文化クラブという取組をやって、親子で参加いただいて、母親の方が外へ出るいい機会になっているという形の感想なども寄せられています。これからはお母さん同士の横のつながりも広げていってほしいというような感想を寄せられていたようです。また、イベントの力仕事を自主的に手伝ってくれて助かっているという、地域住民の方の感想があるなど、実際に参加していただくだけではなくて、協力的に運営に関わるような事例も広がっているような話がございました。

また、町会加入に関しては、近年、町内に外国籍居住者の方が増えていて、町会活動にも理解を示して、複数の外国人の方が町会に加入しているというような中身で、1人の方は町会の役員、理事として活躍しているという事例がございました。この事例は狛江市さんの事例ですが、すみません、補足や詳細をお聞かせいただければと思います。お願いいたします。

○狛江市 狛江市の佐藤でございます。

狛江市の単位町会であるのですけれども、駒井町というところがありまして、人口4,550人ぐらい、世帯数で2,100世帯、会員数が1,410世帯ぐらいなんですね。狛江市でも割と加入率がいいと思うんですけども、68%ぐらいの会員数です。多くの外国人の方も居住しておりまして、平成29年とコロナ禍直前の令和元年に地域の底力発展事業助成金を活用させていただきまして、2回ほど国際異文化体験交流事業を開催いたしました。当時は、御存じのオリ・パラの気運醸成につながることもありまして、地域の外国籍の方にも協力をお願いしました。実行委員会のメンバーにもなっていただきまして、第1回の参加人数は準備会と当日参加者で457人、第2回の参加者は準備会と当日参加者で327人でした。参加国の国籍はアメリカ、カナダ、韓国、ロシア、イギリス、オランダ、西アフリカ、中国などでした。各国の子供たちの遊び、歌、踊り、食べ物など文化の違いを体験し、交流を図ることを目的といたしました。

世界の遊び、世界の料理——具体的に申し上げますと、アメリカの遊びとしてはラインダンス、韓国は歌、カナダはキンボール、それからアメリカでSimon says、ロシアでルチョイヨクというんですかね。日本はだるまさんが転んだをやりました。世界の料理につきましては、アメリカはホットドッグ、韓国はチヂミ、カナダはキャロットケーキ。これは、前日の朝から3か所ぐらい——地域センター2か所と学校の調理室もお借りしまして、結構量が多かったものですから大変でした。ロシアはクレープチョコレート、日本は赤飯に

しました。ちょうど子供たちのお昼の時期に合わせましたので、赤飯35キロを1回ずつやりました。

そんなことで大変盛況で喜んでいただいたのですけれども、この文化交流を通じまして地域の外国人との関わりが非常に深くなりまして、母国にお帰りになったときに、東京都の狛江市にこんな町があって、すばらしい人たちと交流できたんだよ。それをよき思い出として持ち帰っていただいて次世代に資することになれば、よかった事業かな、そんなふうに考えております。

今後は、日本の人口が減少する中で、ますます外国人による協力が求められると考えております。また、何よりもうれしかったことは、この交流会がきっかけで複数の外国籍の方に町会に加入をしていただきました。その中でお一方は町会の役員、理事になっていただきまして現在も活躍していただいております。このことは、東京都の地域の底力発展事業を活用させていただいたおかげさまと本当に感謝しております。助成がない場合は多分この事業は行えなかったんだろうな、そのように考えております。

私からは以上でございます。ありがとうございます。

○地域活動推進課長 佐藤会長、ありがとうございます。こちらの助成事業も活用いただいたということで、私もそういうお話を頂いて非常にうれしく思いました。交流会で遊びですとか食などを通じて多くの外国人の方と日本人の方が交流をして、それが最終的に町会・自治会の加入につながったという事例だったと思います。御参考になるような事例でした。

時間が限られておりますので、次のページの第4の多文化共生の推進における課題は簡単に御説明をします。この課題について一番多かったのが、コミュニケーションが難しく町会・自治会の加入につながらないというところで、そちらに苦勞されているようなことをおっしゃる区や市の方が多かったことになっております。具体的な中身については、9ページにございますものを後ほど御覧いただければと思います。やはり言語の壁などでなかなか伝えるのが難しいということで御苦勞されている方が多いと書かれてございます。

また、10ページ目にも引き続き書いておりますけれども、様々な、ごみ出しの関係でもめたり、ルールの周知に苦勞しているような事例などがあると御報告いただいております。どうやって情報を伝えていくのか。なかなか外国人住民からの反応が得られないことで苦勞されていらっしゃる方が多いというふうに聞いております。

最後のページになりますが、11ページ目にその他の御意見、事例ということで、その中

の真ん中にあります、「地域で暮らす外国人とのコミュニケーションブック」を作成したということです。これは台東区さんで、今回皆様にお配りしているこちらの「外国人とのコミュニケーションブック」になるのですが、すみません、補足や御説明を台東区さんをお願いしたいんですが、よろしいでしょうか。

○台東区 台東区町会連合会事務局の倉片と申します。

行政のほうで作った「外国人とのコミュニケーションブック」ですけれども、日本の方向けに作っています。要は、外国人の方となかなかコミュニケーションを取りづらいということで、何とかそのハードルを下げたいと区のほうで発行させていただきました。この冊子のほかに、やさしい日本語講座も毎年数回実施しております。改めてこの「コミュニケーションブック」という形で発行して、昨年7月に台東区の町会に、1冊ずつではありましたが、配布しています。資料にもありますとおり、民生委員の方とか必要とされている方のほうにもお配りしています。

一方で、外国人向けには、大人向け・子供向けの日本語教室を開催したり、幾つかの講座等もやってはいるんですけれども、やはり外国人の方に対しても日本の方と接するためのハードルを下げなければいけないということで、お互いのハードルを下げながらどこかで接点を持ってもらって、町会加入につながったり、一緒にトラブルなく生活していければなというところがございます。この「外国人とのコミュニケーションブック」にも町会の紹介ですとか、町会さんのほうで何かチラシを作る際にやさしい日本語でこういう記載の仕方がありますということを御紹介させていただいています。

外国人向けの日本語教室とかでも町会のことを紹介したそうです。そうしたら、「町会って何だ？」ということで興味を持った参加者の方が実際に町会に加入された例などもあるというふうに聞いています。皆様からの報告で、いろいろな働きかけをして町会の理事にまでなった外国人の方がいるというのは非常に素晴らしいことですので、恐らくどこの行政も同じような取組をやっているとは思いますが、台東区のほうでもいろいろ参考にしながら続けていけたらと思っております。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。こちらのものもほかの地域でも同じように使える中身でございますので、参考になる事例かなと思います。

いろいろな各区や市の御報告などを受けましたけれども、全体を通じて何か御意見ですとか御感想、また、こういう事例がありますよというような御発言等あります方は、もしよろしければ挙手いただければと思います。何か御感想とか御意見、こういう取組がある



とか、今回報告を頂いた市や区の方に対してちょっと聞きたいことがあれば、何か御発言があればお聞かせいただきたいんですが、どちらかの区や市の方でございますでしょうか。

考えていただいている間に、お配りした資料なども御説明をしたいと思います。今日お配りした事例集の冊子をまず御覧いただければと思うんですが、この中でも多文化共生に取り組んでいただいている各町会の事例を御紹介しております。まず、4ページ目の板橋区の町会では、盆踊りの大会などに対して外国人の方を巻き込んで一緒にやった多文化交流事業の事例がございました。8ページ目を御覧いただくと、台東区の実例の中でも、外国人の方に、地域の学校ですかね、ビジネスカレッジの方に協力いただきながら会場の運営を手伝ってもらうなど様々な取組をやったような事例も書かれております。次の10ページ目は杉並の自治会さんのほうで、合同防災訓練と多文化共生づくりということで、訓練のほうに外国人の方に参加いただくような取組をやった事例でございました。ちょっと飛びまして、14ページ目の世田谷区の町会でも、外国人の方に防災訓練などで、やさしい日本語などを活用したチラシなどを配布して説明を行ったという事例でございました。こちらの4事例も、持ち帰って中身を見ていただいて、今後の参考にさせていただければと思います。

また、今日お配りした資料、その他ございまして、「多文化共生を活かして活気ある地域に」というものと「地域みんなで災害に備えましょう」、こちらのチラシもお配りしています。これは、来年度、令和6年度の地域の底力発展事業助成で活用いただく、特例を適用いただくためのチラシになります。今年度、5年度までは地域の多文化共生に関して呼びかけるチラシだったのですが、裏面は防災関係、地域防災について働きかけるようなチラシで、両面で普及を図っていただければと思っております。下に書いてありますが、「外国人とも助け合うまちづくりを！」ということで、「声をかけてみよう!!」、「一緒に活動してみよう!!」、こういうようなきっかけから外国人の方との共生に取り組んでいただければというふうに思っています。

最後に、お配りした資料の中で東京都多文化共生ポータルサイトの御紹介ががございます。東京都は、ホームページなどを通じまして多文化共生につながるような資料の提供ですとか情報発信を行っています。今日皆さんに特に御紹介したかったのは、裏面にあります動画一覧のほうを御覧いただければと思います。こちらはYouTube、インターネットで見れる動画サイトですが、そちらのほうで動画が見れることになっておりまして、この中でそれぞれの状況に応じたやさしい日本語で外国人の方に説明するようなものが見れることに

なっています。その中で、真ん中ほどにあります「町会に勧誘する」は、実際に町会にやさしい日本語で勧誘する方法について動画になっておりますので、よろしければ、こちらのYouTubeなども見ながら、こういうものを御覧いただければと思います。

今回の件で何か御意見とか御感想とかございますか。

それでは、事務局からは以上になります。

○座長 皆様、様々な御発言、御意見等ありがとうございました。お時間の都合もございまして、本日の検討会はこの辺りでまとめに入らせていただきたいと思います。

本日の意見交換では、各区市町村の町会・自治会さんのほうで、外国人を巻き込むような工夫をして防災訓練を実施している例の御紹介がございましたり、あるいは、やさしい日本語で分かりやすく町会の取組を案内されているような形で加入促進をされている例もございました。やさしい日本語につきましては、本日たくさん資料も配らせていただいておりますので、御覧いただければと思います。御存じの方もいらっしゃると思いますが、東京に来ている外国人はいろいろな国から来ている方がいらっしゃって、私たちは外国の人というとすぐ英語かなというふうに思うんですけども、実は英語を話せない方もたくさんいらっしゃる中で、東京に住んでいらっしゃる外国人の方々等が一番話す言葉は実は日本語だという調査がございます。もちろん、難しい日本語を理解できるということはなかなかないわけですし、そういう方々に対してもコミュニケーションが取れる形ということで、やさしい日本語を普及しているということがございます。

お手元のチラシ等も御覧いただいたら、非常にかみ砕いたやさしい言い方で、あまり漢語とか使わずに、分かりやすい言葉を使っているということですが、こういったものを使うことによって外国の方とコミュニケーション、私たちも日本語で話せば、外国の方も日本語で理解できるということが生まれるそうでございます。もともとやさしい日本語は、阪神・淡路大震災のときにコミュニケーションを取るために非常に有効だったということが明らかになって普及が始まったと聞いておりますが、こういったものを使ってコミュニケーションを取ってまいりますと外国人の方ともいろいろなことをお互いに伝え合うことができるようになるのではないかというふうに思っております。事前に頂いたアンケート結果でも、外国の住民の方とのコミュニケーションの難しさをおっしゃっておられる方も多々ある一方で、積極的にイベントに関わっていただくような形で外国人と一緒に活動されている町会の方、町会役員になってもらっているところもあるというふうに御紹介いただきました。

今回、最後に御紹介いたしましたように、町会への勧誘ですとか、ごみ捨てのルールなどを外国人にやさしく伝えるための動画等も御紹介させていただきましたので、引き続き私どもも町会・自治会の皆様と連携しながら共生社会に向けて取組を進めたいと思っております。

すみません。私のほうから一方的に話してしまった形ですけれども、まとめは以上とさせていただきます。今、御発言、御意見いただく町会・自治会さん等ございますでしょうか。何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後に吉成副座長から本日の検討会の感想を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

○副座長 副座長を務めます東京都並びに中野区町会連合会会長の吉成でございます。

本日は、地域活動に関する検討会に御参加いただきまして、また、多文化共生の取組についてお話しいただき、誠にありがとうございました。

皆さんの話を聞いておりますと、コミュニケーションの難しさ、ごみ出し等のルールに関するトラブルなどの課題がある中で、様々な工夫により町会・自治会活動に外国人住民が参加している例もあることがよく分かりました。皆様の日々の御尽力には感心いたしました。

また、本日紹介された事例やアンケート結果のほか、東京都から提供された資料など、外国人住民と地域で共生していくためのヒントとなると考えます。これからの活動の参考にさせていただければと思います。

本日はお疲れさまでした。

○座長 吉成副座長、どうもありがとうございました。

それでは、お時間となりますので、本日の議事は以上とさせていただきます。

これをもちまして令和5年度第3回東京都地域活動に関する検討会を閉会させていただきます。委員の皆様のご協力によりまして滞りなく会の運営を進めることができましたこと、厚く御礼申し上げます。

また、次回のこの検討会の開催につきましては、現時点では日程等未定となっております。決まり次第、皆様へ御連絡をさせていただきますので、引き続き御協力をよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時32分閉会